

特別講演

「なぜ日常的な Long term eGFR plot (LTEP) 活用が求められるのか？ ～患者・地域・国の未来を守る CKD 診療～」

市立大津市民病院 内科診療部長(腎臓内科部門) 兼 血液浄化部診療部長

中澤 純 先生

腎予後不良の早期発見と進行抑制には、eGFR の長期的評価が不可欠です。血清クレアチニンは指数関数的に上昇するため早期低下を見逃しやすく、eGFR は直線的に低下するものの短期観察では変動が大きく真の傾向を把握しにくいという問題があります。この課題を解決するのが「Long term eGFR plot (LTEP)」であり、現在 1000 施設以上に導入されています。LTEP は手入力 Excel 版から、自動データ取り込み、多項目表示、eGFR slope や腎予後推定、患者スマホ連携等が可能なものへ発展してきました。診療所調査では長期通院患者の半数以上が慢性腎臓病(CKD)であり、その 3 割超が腎予後不良で、eGFR $\geq$ 60 例でも約 2 割に将来的な透析リスクが示されました。本講演では LTEP を日常診療に活用し、腎予後不良症例を早期に抽出・介入することで透析回避に繋げる重要性と具体的方法をお話させていただきます。